

令和 5 年 1 月の解説（府県天気予報）

【1 月の天候状況】

上旬は、旬のはじめと終わりは北日本と東日本を中心に冬型の気圧配置となり、10日は北海道で大雪となった所がありました。2日から4日にかけては北海道を中心に強い寒気の影響を受けたため、平均気温は北日本で低くなりました。期間の中頃は冬型の気圧配置が緩み、西日本や沖縄・奄美では移動性高気圧に覆われる日もありました。このため、北・東・西日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美では晴れた日が多く、日照時間は北・東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多く、沖縄・奄美で多くなりました。日照時間平年比は東日本太平洋側で122%と、統計開始以降、2004年と並んで1月上旬として最も多く、西日本太平洋側で143%と、統計開始以降、1月上旬として最も多くなりました。降水量は北・東日本太平洋側でかなり少なく、西日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なくなりました。北日本太平洋側の降水量平年比は17%と、統計開始以降、1月上旬として最も少なくなりました。

中旬は、冬型の気圧配置となった日が少なく、寒気の影響を受けにくくなりました。旬の前半を中心に暖かい空気に覆われやすかったため、平均気温は北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高くなりました。平均気温平年差は東日本で+2.7℃と、統計開始以降、1月中旬として最も高くなりました。北・東日本日本海側と沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れた日があったため、降水量は北日本日本海側でかなり少なく、日照時間は北・東日本日本海側でかなり多くなりました。一方、北・東日本太平洋側と西日本では気圧の谷の影響を受けやすく、曇りや雨または雪の日が多くなりました。13日から14日にかけては前線を伴った低気圧が本州付近を通過した影響で西日本を中心にまとまった雨となった所があり、降水量は西日本日本海側でかなり多くなりました。

下旬は、低気圧が日本海と本州南岸付近をたびたび通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となりました。このため、降水量は北・東・西日本日本海側で多く、日照時間は北日本日本海側と東日本太平洋側で少なくなりましたが、北日本太平洋側で多くなりました。一方、北・東日本太平洋側ではまとまった雨または雪とならなかったため、降水量は少なくなりました。また、沖縄・奄美では、旬の終わりに高気圧に覆われて晴れた日があったため、日照時間は多く、降水量は少なくなりました。旬の中頃は冬型の気圧配置が強まり、強い寒気の影響を受けたため、全国的に気温が平年を大きく下回り、平均気温は北日本、東日本、西日本でかなり低く、沖縄・奄美で低くなりました。四日市（三重県）では25日の日最高気温が-1.6℃、26日の日最低気温が-8.9℃と、いずれも統計開始以降、通年で最も低くなるなど、各地で低温となりました。また、日本海側を中心に太平洋側の一部でも交通機関等に影響が出るような大雪となった所があり、降雪量は西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多くなりました。津山（岡山県）では24日の降雪の深さ日合計は44cmと、統計開始以降、通年で最も大きくなりました。

【1 月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）と同じ83%で、明後日予報も例年値と同じ81%でした。地方別の適中率では、明日予報は、

北陸・四国・九州南部・沖縄地方では例年値を下回りましたが、それ以外の各地方では例年値と同じか例年値を上回りました。また、明後日予報は、北陸地方と中国地方で例年値を下回りましたが、それ以外の各地方では例年値と同じか例年値を上回りました。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.2℃で、東北地方を除く全ての地方で例年値と同じか例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.2℃小さい 1.3℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の府県予報の利用にあたって】

3月になると、日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通過して天気が数日の周期で変わりやすくなります。また、急速に発達する低気圧によって「春の嵐」となることがあるため、突風や強風に注意が必要です。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、早期注意情報、気象情報に留意して下さい。